７章　総合問題７

問題

【１】

解答

環境保護の考え方は，自然はお金に換算できないので，汚染防止法を制定すべきだと主張するものと，換算できるので，環境汚染に課税し経済面から意識させるなどして市場原理に委ねるべきだとするものと，２つある。(99 字)

別解

環境保護の考え方は２つある。ある人は自然はお金に換算不能なので，法的規制で保護すべきだと考え，別の人は換算可能なので，例えば環境を汚染した者に課税するなどして，市場原理に委ねて保護すべきだと考える。(99 字)

解説

【本文の構成・指針】

ポイントは３つ。

①環境保護に対する２つの意見がある。考え方の違いは，自然の価値をどのようにとらえるかという点である。〔第１段落前半〕

②あるグループの主張は次の通り。〔第１段落後半〕

『自然の価値はお金に換算できない』

⇒だから，環境を保護するには汚染防止の法律を制定すべきである。

③別のグループの主張は次の通り。〔第２段落〕

『自然の価値はお金に換算できる』

⇒だから，市場原理に委ねるべきだ。

→例えば，環境汚染に課税すれば，環境汚染は経済的に理にかなわないが汚染防止は理にかなうことを，資本家や消費者に警告できる。

全訳

自然環境を保護するのに最も有効な方法は何であろうか。実のところ，この問いに対してそれぞれ違う解答を提示する，２つのグループが存在する。自然の価値がどのように決定され得るかということに対する考え方によって，彼らが提示する解答は決まる。一方のグループの人々が主張するのは，例えば手のつけられていない熱帯雨林や汚染されていない河川の価値というものは，お金に換算することは決して出来ないということである。それゆえ，こういったものは産業上あるいは経済的などんな使用からも保護されなければならないと論じるのである。したがって，自然環境を保護するのに最も有効な方法は，自然を汚染したり分別なく利用することを止めさせる厳しい法律を制定することだと考えている。

それに対し，もう一方のグループの人々は，同じ目的を達成するのに市場実勢に頼った方が良いと主張する。自然環境がどれくらいの価値なのかをお金に換算することが現に可能であると考えているのだ。例えば，彼らの計算によれば，環境汚染はヨーロッパの GNP の５％

の価格に相当するという。そして，この代価は自然環境を汚染した人々が支払うべきであると彼らは考える。言い換えれば，企業は自ら環境を汚染した程度によって，課税されるべきであり，そうすれば企業は環境を汚染する度合いの小さい技術を使って，もっと環境に優しい製品を生産するようになるというのだ。もし企業がこのことを実行しなければ，経営不振に陥るだろう。というのも，環境を汚染する製品の価格が上がると，人々はそのような製品を今よりも買わなくなるからだ。このように環境汚染に課税すれば，環境汚染は利益が出ないが汚染防止は理にかなうということを，資本家や消費者に対して警告することになるだろう。

注

ℓ. 1 ◇ basically「基本的には；本来は；実は」 文修飾

ℓ. 2 ◇ who：先行詞は two groups

◇ The answers (which) they give ～

ℓ. 4 ◇ simply ＝ completely; absolutely

◇ in terms of ～「～によって；～の点から；～に換算して」

ℓ. 7 ◇ against ＝ in opposition to

ℓ. 8 ◇ market forces「自由市場方式；(価格などを決める) 市場実勢」

ℓ. 10 ◇ cost ＝ require a certain effort or sacrifice

ℓ. 12 ◇ so that … ＝ with the result that …

ℓ. 14 ◇ go out of business ＝ become bankrupt

ℓ. 15 ◇ Pollution taxes of this kind would …

○ would：仮定法。条件は主語。「この種類の環境汚染税金ならば…」という意味。

ℓ. 16 ◇ make sense ＝ have an understandable meaning

ℓ. 17 ◇ does ＝ makes economic sense

【2】

解答

(1) 補う単語：myself	ⓒ：**b**	ⓔ：**c**
(2) 補う単語：make	ⓒ：**b**	ⓔ：**d**
(3) 補う単語：it	ⓒ：**b**	ⓔ：**a**
(4) 補う単語：let	ⓒ：**d**	ⓔ：**c**
(5) 補う単語：much	ⓒ：**d**	ⓔ：**b**

解説

(1) ○ I can't get into my room.（私は部屋に入れない。）に続く文を完成させる問題である。（ ⓑ ）と（ ⓒ ）の間に to があるので，I was ～ enough to ….（私は…するほど～だった。）の文型を用いればよいと推測でき，まず（ ⓑ ）に **a** enough が入る。

○「自分の部屋に入れない」という情報がすでに与えられているので，（ ⓐ ）に stupid を入れて I was stupid enough to（ ⓒ ）（ ⓓ ）（ ⓔ ）.（私は愚かにも…した）となることがわかる。

○残った選択肢は lock と out なので，lock out A〔lock A out〕（Aを締め出す）⇒ lock out *oneself*〔lock *oneself* out〕（(自動ロックがかかり，鍵を中に置き忘れたまま）ドアを閉めて中に入れなくなる）が続くことがわかる。

○ただし，（ ⓒ ）と（ ⓔ ）には **a** ～ **d** に与えられている語句が入るという条件があるので，使えるのは lock *oneself* out で，（ ⓒ ）に **b** lock が，（ ⓔ ）に **c** out が入る。

○ *oneself* は主語に呼応して，ここでは myself となる。

○ lock *oneself* out が思いつかなかったという受験生の声を実際に多く耳にした。

（2） ○ Let's not use any of these pictures for the poster.（ポスターには，これらの写真のどれも使わないようにしよう。）に続く文を完成させる問題。

○選択肢に look，older，than があり，２文の中で複数名詞は these pictures のみなので，They ＝ these pictures と考えられることから，「写真では彼はかなりふけて見える」という内容が続くことが推測できる。

○ They（＝ these pictures）を主語にして，文を成立させるためには，make を補って，無生物主語の文にすればよい。

○したがって，

They $\boxed{\text{make}}$ <u>him</u> <u>look</u> a lot <u>older</u> <u>than</u> he really is.
a **b** **c** **d**

が正解の文となる。

○無生物主語構文で使われる動詞はある程度決まっているので，一定量の基本文を覚え込んでおかなければならない。

Ex. Her charm of manner *made* her very popular.
（彼女の態度が何となく人を引きつけるので，とても人気があった。）
This road will *take* you to the station.（この道を行けば駅に出る。）
The wind *blew* a roof from our house.（風で家の屋根が吹き飛んだ。）
The glorious weather *tempted* large crowds of people out of the city.
（快晴に誘われて郊外は大した人出だった。）
The next morning *found* my brother penniless again.
（翌朝，私の兄は再び一文なしになっていた。）
I haven't written to you for sometime but hope this letter will *find* you in good health.
（ご無沙汰していますが，お元気のことと思います。）
The year 1492 *saw* the discovery of America by Columbus.
（1492 年にコロンブスはアメリカを発見した。）

（3） ○ She is intelligent, but she just doesn't have ～「彼女は頭がよいが，～はまったく持ち合わせていない」の「～」の部分を完成させる問題。

○選択肢に what が与えられているので，（ ⓐ ）（ ⓑ ）（ ⓒ ）（ ⓓ ）（ ⓔ ）a good journalist は，what が導く名詞節になると推測される。与えられている動詞は take で，

It takes A to ….「…するのに A（＝必要条件）が必要だ。」
となるのを知っていれば，
what it takes to be a good journalist
d　　b　c　a
（優れたジャーナリストになるのに必要なもの）
を作るのは容易。

○この it は，時間・環境を表す非人称の it とも，形式主語の it とも考えることができる。

○この形は口語でも頻出する。

○関係代名詞 what と take のような基本動詞は，東大ではこれまで読解問題でたびたび出題されてきたので，単に訳して終わりではなく，作文に応用できるくらいになっていることが必要。

○なお，与えられている文の just は，否定語の前で用いられて，文の内容すべてを否定し，「少しも…（ない），とても…（ない）」の意味を表す用法で，重要。
cf. I *just can't* believe it.（とてもそんなことは信じられない。）
I *just don't* care.（ちっとも気にしちゃいない。）

（4）○ I'm terribly sorry for saying what I said yesterday.（昨日はあんなことを言ってしまってどうもすみません。）に続く文を完成させる問題。

○お詫びをしている内容で，I shouldn't have ….で始めなくてはならないので，shouldn't have done「…すべきではなかった（のにした）」の形になると推測できる。

○したがって，（　ⓐ　）には過去分詞が入らなくてはならないが，選択肢には過去分詞が与えられていないので，（　ⓐ　）に入る語が補う単語となる。

○ get がすでに与えられているので，get（　ⓒ　）（　ⓓ　）（　ⓔ　）の部分について，選択肢から，
get the better of
d　a　c
という頻出の表現を思いつくのは容易。

○ get〔have; gain〕the better of ～
①「〈人が〉～（人・議論など）に打ち勝つ」
cf. In the last chess tournament, the British champion *got the better of* his opponent.
（チェスの最終戦で，英国のチャンピオンが対戦者に勝った。）
②「〈感情・欲望などが〉～（人）を支配する」
cf. Fears *got the better of* her.
（彼女は不安の念を抑えることができなかった。）
となると，残っている選択肢は my emotions だけなので，

my emotions get the better of me
b **d** **a** **c**

と並べることができる。

○問題は，（ ⓐ ）に入る動詞の過去分詞だが，これは let A …の形を用いて「〈人が〉A〈物〉が…するに任せる，A をうっかり…させる」の意味を作る。

cf. I felt a pain in my back but tried not to *let it show*.

（私は背中に痛みを感じたが，顔に出さないようにした。）

Be careful not to *let the milk boil over*.

（牛乳がふきこぼれないように気をつけなさい。）

○したがって，

I shouldn't have let my emotions get the better of me.
b **d** **a** **c**

「私は自分の感情に自分を支配させるべきではなかった→自重すべきだった。」

本問を見てもわかるように，基本語については辞書の例文をかなり読み込んでいないと，短時間で正答に至るのは難しい。

（5） ○ We've been waiting for you for over an hour.（私たちはもう 1 時間以上も君を待っています。）に続く部分を完成させる問題。

○ How（ ⓐ ）（ ⓑ ）do you think（ ⓒ ）（ ⓓ ）（ ⓔ ）to spend on your homework? から，「宿題にあとどれくらいかかると思っているのですか」となることが推測できる。このような形を用いる疑問文では，

What do you think *this is*?「これは何だと思いますか。」

の this is のように「平叙文の語順」が続く。

○したがって，

you will need
d **c** **b**

が続く。

○「あとどれくらい」の部分は，How much ＋比較級…? のパターンで処理できる。

○したがって，

How much longer do you think you will need to spend on your homework?

が正解の文。

○ How much ＋比較級…? のパターンは盲点。例文を補っておこう。

cf. How much hotter is it today than yesterday?

（今日は昨日よりどのくらい暑いですか。）

How much higher is Mt. Fuji than Mt. Chokaisan?

（富士山は鳥海山よりどのくらい高いですか。）

How much longer will we have to work today?

（今日はあとどれくらい働かなければならないのでしょうか。）

【3】

解答

「**全訳**」の下線部ⓐ，ⓑ参照。

全訳

１月の初めに，妻と私はローマへ向けて出発した。私の愛着は，今でもまだその時に発見したイタリアにとても深く結び付いている――と言うのも，私がそこでその23年前に過ごした数カ月は，私にほとんどあるいはまったく何も語ってはいなかったからである――このため，ⓐイタリアについて今，詳細に書き記そうとすると，イタリアへの感謝の念によって饒舌（じょうぜつ）になるか，あるいは大げさな奴と思われるのを恐れるあまりに無口になるかのいずれかであろう。ローマのおかげで妻は健康を回復し，私はプラハのことを忘れたという事実だけで，その謝意の一部を説明するには十分であったかも知れない。プラハの肌寒さの後の暖かいイタリア生活が，我々２人を初めは少し酔わせたのかも知れない。しかし，ⓑ我々にとって極めて大きな意味を持つようになったことは，その後の１年半の間に徐々にイタリアがその姿を現してきたことであった。我々はイタリアの友人たちを理想化していたわけではない。そうではなくて，彼らをあるがままに受け入れることができるという喜びを噛みしめていたのである。

注

ℓ.1 ◇set out ＝ begin a journey
◇affection ＝ a feeling of loving or liking somebody or something
＜ affect ＝ move; touch
◇so ～ that …「とても～なので…」
○ that：ℓ.3
◇attach ＝ fasten; join
◇the Italy（that）I discovered then
○ the Italy「イタリアの側面」
○ then「以前の訪問から23年を経た再訪時に」

ℓ.3 ◇if … were to do … would …：仮定法
◇at length ＝ ① after a long time; at last ② thoroughly; in detail

ℓ.4 ◇gratitude ＝ thankfulness *cf.* grateful ＝ thankful
◇dread of appearing extravagant（would）tempt me to say …
○ dread ＝ great fear
○ appear ＋ C「Cのように見える（思える）」
○ extravagant ＝ exceeding what is reasonable or appropriate; absurd

ℓ.5 ◇well ＝ in good health

ℓ.6 ◇account for ＝ explain
cf. There's no *accounting for* tastes.（嗜好は説明不能である。）

ℓ.7 ◇chill ＝ unpleasant coldness
◇ intoxicate ＝ ① make（someone）drunk ②《figurative》excite or exhilarate（someone）

◇ it ～ which …：強調構文。

◇ the gradual revelation of Italy　＜ Italy revealed itself gradually の名詞構文

○ reveal ＝ show; display

ℓ. 9　◇ instead ＝ as an alternative or substitute

◇ as they were：副詞句・形容詞句の両方の解釈が可能

【4】

解答・解説

（1）　**d**「１人の犠牲者は何度も使えない」

○ ℓ. 7 Anyone who had passed the time … refused to share a bench with them again. を参照。

○「『生きている』犠牲者は何度も使えない」というのが「いったん殺してしまえば二度とは使えない」という意味であるならば，living とすると over and over では回数が過剰である。また，実際にこの原文も single になっている。

○ over and over ＝ many times

（2）　read

○直前の do に対応させる。

○ ℓ. 2 one trying hard to read a book を参照。

（3）　told

〔(I) already told you that, did I?〕

cf. say to someone; *talk* to someone; *speak* to someone

（4）　Two

○「蓄財と破産」が合計５回となる数字を入れる。

（5）　**ア**　live〔lead〕　　**イ**　life

「もしも私が私の人生を再度生きることになったならば」

○「同属目的語」*cf. live* a happy *life*（幸せな人生を送る）

sing a happy *song*（楽しい歌を歌う）

dream a happy *dream*（楽しい夢を見る）

（6）　plastic

（7）　opportunity

○ “All of them complaining about no frontiers any more.”（ℓ. 28）

≒ “Don’t talk to me about no opportunity any more,”（ℓ. 37）

（8）　**e**

○ locate ＝ find the position of

a　lay down ＝ put down

b　look up ＝ find (a word) in a book

c　recognize ＝ know; be aware of; realize; identify

d　search (A for B) ＝ look at A in order to find B

cf. search | the house（家宅捜索をする）
| for the house（その家を捜す）

e spot = catch sight of; discover; pick out

（9） **c**

○ delicacy C = a rare or expensive food thought to be delicious「珍味」

a「繊細な，あるいは微妙な性質を示すもの」

○ fine = delicate; subtle

○ subtle = delicate; not easy to explain

b「壊れやすい，柔らかい，あるいは上品な美しさを持つもの」

○ fragile = easily broken; weak; frail

c「たいへんに美味であると考えられているもの」

d「巧みな，あるいは繊細な扱いを必要とするもの」

○ tactful = having or showing tact < tact「機転；如才無さ；こつ」

e「感覚の洗練，あるいは理解力を伴って為されるもの」

○ refinement < refine = make（something）more elegant

○ appreciation = understanding

（10） door

○ knock at〔on〕the door

〔『ドアをノックする』の意では knock は通常自動詞〕

○直後の trying to get in を参照。

（11） way

< must be on *one*'s〔the〕way = must leave

cf. on *one*'s〔the〕*way* = leaving

○東京大学では way が頻出するので，way が関与する慣用表現はすべて覚えなくてはならない。

全訳

２人の老人がある朝，あるフロリダの保養地の陽光の中で公園のベンチに腰を下ろしていた――一方は本を読もうと懸命に努めていたが，その一方でもう１人のハロルド・K・ブラードは，多くの分野で成功を収めた実業家としての自分の生涯の履歴を彼に語り聞かせていた。彼らの足元にはブラードの犬が横たわっており，大きな濡れた鼻でその聞き手の男の足首の臭いを嗅いで彼をさらに悩ませていた。

ブラードは彼の大切な過去を振り返って楽しんでいた。しかし彼は，人食い人種の生活を悩ますのと同じ問題に直面していた。すなわち，同じ犠牲者は繰り返して使えないということであった。彼及び彼の犬とともに一時を過ごしたことのある者は誰しも，二度と彼らと同じベンチに座ろうとはしなかった。このために，彼らは毎日新顔を求めて出かけていた。彼らはこの日の朝は幸運に恵まれた。というのも，この見慣れぬ男を即座に見つけたからである。彼はどう見てもフロリダに着いたばかりで，また読書以外にすることもなさそうであった。

「さよう。」とブラードは言って，彼の講義の１時間目を締め括（くく）った。「生涯に５度財を成し，

そして破産した。」

「そのようにおっしゃいましたね。」とその見慣れぬ男は言った。彼の名をブラードは聞かずにいた。「やめてくれ。しっ，しっ，しっ，やめてくれ。」と彼はその犬に向かって言った。犬はますますしつこく彼の足首に向かって行った。

「はて，もうお話しましたかな。」とブラードは言った。

「２度おっしゃいました。」

「そうか，言ったようですな。不動産で２度，屑鉄で１度，石油で１度，運送業で１度である。そうした過去の栄光の日々を１日たりとも消してしまいたいとは思わぬ。」

「そうでしょうね。すみませんが，その犬をどこか別の場所に移動させてもらえないでしょうか。私の足首を嗅いできて，いらいらさせられます。」とその見慣れぬ男は言った。

「プラスチックだ。」とブラードは言って，ほくそ笑んだ。

「何ですって。」

「プラスチックですよ。あなたの靴下留めにプラスチックの何かがついているに違いない。ボタンかもしれない。この犬はプラスチックが大好きなのだ。なぜだか分からないが，こいつは周りに少しでもプラスチックがあると，それを嗅ぎつけて噛み砕くのだ。それこそ今頃はきっと始めていたはずの商売なのだ，もし医者たちに働き過ぎぬようにと言われていなかったらね。私は心臓が悪いんですよ。」

「犬を向こうのあの木につないでもらえませんか。」とその見慣れぬ男が言った。

「近頃の若い連中には実に腹が立つ！　奴らは皆，もう未開拓の分野など１つもないと文句ばかり言っている。今日ほど多くの未開拓の分野があったことなどかつて一度もないのに。ホーレス・グリーリーだったら今の時代に何と言うかわかるだろう。」とブラードは言った。

「彼の鼻は濡れています。」とその見慣れぬ男は足首を犬から引き離そうとしながら言った。「やめろ！」

「鼻が濡れているのは健康な証拠だ。」とブラードは言った。「『若者よ，プラスチックをめざせ！』グリーリーならそう言うだろう。『若者よ，原子力をめざせ，電子工学をめざせ！』」

犬はその見慣れぬ男の靴下留めに付いているプラスチックのボタンの位置を確実に突き止め，歯をその御馳走に突き立てようと懸命になっていた。

「やめろ！」とその見慣れぬ男は言った。

「私に向かって新分野開拓のチャンスがもうないなどと言わないでくれ。」とブラードは言った。「チャンスなら国中の戸を叩いて，中へ入ろうとしているではないか。私の若い頃など…」

「すみませんが」とその見慣れぬ男は冷静に言った。彼は音を立てて本を閉じ，立ち上がって足首を犬から引き抜いた。「私は行かなければなりません。では御機嫌よう。」

注

ℓ.2　◇ one … the other …：２個の要素の存在。

ℓ.3　◇ At their feet lay Bullard's dog …

　　○「場所」を表す副詞語句が前に出たことによる倒置

　　○ further「Bullard の話にだけでなく；犬にまで読書を妨げられて」

ℓ.4　◇ torment ＝ annoy; worry; tease

　　◇ sniff at ＝ try the smell of (something)

○ sniff = draw air in through the nose

○ at = towards

ℓ. 5 ◇ review = view again

ℓ. 6 ◇ complicate = make (something) difficult, confused or complex

◇ namely = that is to say; in other words

◇ victim = a prey

◇ over = again

ℓ. 7 ◇ pass the time of day = have a short conversation (with a neighbor)

ℓ. 8 ◇ set out = set off; begin a journey

◇ in quest *of* = in search *of*

cf. quest *for*; search *for*

ℓ. 9 ◇ arrival = a person that arrives

ℓ. 10 ◇ nothing better to do than …「…より良いなすべきことが一切ない」

< nothing to do + nothing better than …

ℓ. 11 ◇ round out = complete < out = completely

◇ (I) made and lost five fortunes …

○ fortune = large amount of money

ℓ. 17 ◇ did = told you that (twice)

◇ real estate = real property; immovable property

◇ scrap = a small piece of something

ℓ. 18 ◇ would

○仮定法，条件付／仮定の含意「もし私の人生を再度生きることになったらば」

◇ take back = return (something to a place)

○ take back = repeat という語義もあるが，ブラードは過去の回想を楽しんでいるので「２度と経験したくない」ではなく上記の意となる。

「私はそれのうちの１日も持って行って返さないであろう。」

ℓ. 19 ◇ No, I suppose not. = No, I suppose (that) you wouldn't take back …= I don't suppose so.

◇ do you suppose you could …?「…していただけませんか」

○ could：仮定法，丁重な依頼

ℓ. 21 ◇ chuckle = laugh quietly

ℓ. 23 ◇ (There) must be something plastic …

○ plastic：ここでは「形容詞」

ℓ. 24 ◇ crazy about = excited about; enthusiastic about

◇ (I) don't know why that is …

◇ sniff (something) out = find (something) by using the nose

◇ chew (something) up < up = into pieces; completely

ℓ. 25 ◇ speck = a very small piece

◇ the business (that) I'd go into …

◇I'd go … , if … hadn't …
○条件節は仮定法過去完了。
◇by god「きっと」
ℓ. 27 ◇tie = attach or fasten with string or code
ℓ. 28 ◇sore = angry; irritated
◇youngster = young person
cf. gangster（暴力団員）
◇All of them（are）complaining about …
ℓ. 29 ◇frontier = the extreme limit of settled land beyond which the country is wild and not developed
ℓ. 30 ◇would
○仮定法。主語（= Horace Greeley）が条件。
ℓ. 32 ◇That's what Greeley'd say. ＜ Greeley would say that.
ℓ. 34 ◇definitely = absolutely; clearly
ℓ. 35 ◇bring A to bear on B = direct A on B
ℓ. 39 ◇evenly = calmly [cá:mli]
◇slam = shut forcefully and loudly
◇jerk = pull suddenly and quickly

【5】

解答

「**全訳**」の下線部参照。

全訳

上手く話すためには，相手が１人であれ群衆であれ，緊張を解いて気楽に構えることが肝心である。多くの知的な人々が，自分のことを頭の回転が遅くて愚鈍であると考えた経験を持っているが，それは機知に富んだ言葉を間髪を入れずに連続して発することが友人たちはできるように見えるのに，自分にはできなかったがためにである。これは人前での気後れや自意識からくる苦痛のためであることが多く，それは舞台上であがることに似ている。人前で少し緊張して落ち着かないことによって，人は自分の頭が正常に働こうとしないことに気付く。もし思いついていたならば見事な場所をその会話の中に見出していたはずの鮮やかな返答や気の利いた言葉を，頭は思いつくことを完全に拒絶してしまうのだ。

注

ℓ. 1 ◇vitally = essentially; extremely ＜ vital = of life; essential
ℓ. 2 ◇at ease = comfortable; relaxed
cf. At ease!（休め）⇔ Attention!（気を付け）
ℓ. 3 ◇not の射程：could not produce ～ as …
○ not は as 以下をも否定している。
○したがって, as ～は「～のように」ではなく,「～のようには」さらには「～とは違って」と訳出するとよい。

◇ remark ＝ a comment; anything said

◇ rapid ＝ quick; fast

◇ in succession ＝ successively; one after the other　＜ succeed ＝ come next

ℓ. 4　◇ companion ＝ a person who shares in the work, pleasures, sadness etc. of another

◇ pang ＝ a sudden sharp pain or painful emotion

◇ embarrassment ＜ embarrass ＝ cause（someone）to feel ashamed

ℓ. 5　◇ akin to ＝ like

○ akin ＝ of similar character

cf. Kin is *akin* to Gin.（キンさんはギンさんに似ている。）

◇ stage fright ＝ nervousness felt by someone performing in public

cf. get stage fright：１対多数

get nervous, feel self-conscious：１対１

◇ ill at ease ＝ uncomfortable; embarrassed; uneasy〔⇔ at ease〕

○ ill ＝ unfavorably or inauspiciously

ℓ. 6　◇ in the presence of ＝ in front of

◇ mind：mind の根本的な意味は，「頭の中の考える場所」

◇ work right

○ right ＝ rightly

◇ It ＝ his mind

◇ simply ＝〔否定後の前で〕「どうしても；絶対に」

○ simply は続く refuses に内在する否定的な意味を強めている。

◇ come up with ＝ think of; have an idea of

○普通 come up with の主語は人間が来るが，ここでは人間の代わりに his mind がきている。

ℓ. 7　◇ bright ＝ clever; quick-witted

◇ lively ＝（of non-living things）moving quickly or causing quick movement

◇ comeback ＝ a clever quick reply to a critical remark

◇ that：先行詞は the bright remark or the lively comeback

◇ would：仮定法過去完了

○条件は simply refuses to come up with the bright remark or the lively comeback の逆の内容。つまり「the bright remark か lively remark を思いついていたのなら」。

【6】

解答

A. It was natural that *differences* would develop between British and American English.
   - ○ By the *nineteenth ／ 19th ／ next* century visitors from England had a negative impression of American English.
   - ○ There were *changes* in Britain as well as America.

B. New words began to appear in English as soon as early *settlers* began to arrive in America.
   - ○ The settlers needed new words to describe their new *environment*.
   - ○ They used English words for plants and animals that were *different* from those that inhabited England.
     - ○ Examples:
       - ○ *Blackbirds*, *robins*, and *swallows*

C. The settlers made up their own words to describe unfamiliar features of *nature*.
   - ○ Sometimes the words were based on the *sounds* that birds or other creatures made.
     - ○ Examples:
       - ○ *Bobwhite* and *whippoorwill*
   - ○ More often they used the technique of *combining* two older words.
     - ○ Examples from early American English:
       - ○ *Eggplant*, *catfish*, *bluejay*, *rattlesnake*, *bluegrass*, *bullfrog*, and *hillside*
   - ○ Later examples:
       - ○ *Sidewalk*, *drugstore*, *hangover*, *barbershop*, and *doghouse*

D. Another solution was to *borrow* words from other languages.
   - ○ Examples of words used to describe the American landscape:
     - ○ *Swamp* from German
     - ○ *Ravine* from *French*
   - ○ Examples of words borrowed from the *Native* Americans:
   - ○ *Moose*, *raccoon*, *opossum*, *squash*

E. Many words that were once common in Britain but later *fell out of use* were *preserved* in America.
   - ○ Examples:
     - ○ *Fall* for *autumn*
     - ○ *Mad* in the sense of *angry*
     - ○ *Gotten* for *got*
     - ○ *Trash* for *rubbish*
   - ○ Some words were *reintroduced* into Britain.

F. Many of the differences that are apparent today are the *results* of language evolution in Britain rather than America.